

は必要。皆どうやって対処しているのだろう」という話題も頻繁に出てきます。

喘息の既往症がある人は、風邪にかかることが発作の引き金になることもありますから、「インフルエンザかどうか見分ける」前にとにかく主治医を受診することを促しています。ただ、いつも使っている薬を定期的に入手するために処方箋だけもらえばよいような場合は、インフルエンザの流行が始まる前に主治医と相談しておいて、そんなときはどうしたらいいかあらかじめ決めておくのも一手だと考えます。

患者にもわかりやすい 情報提示を

予防接種の薬液に含まれる成分や、タミフル® やリレンザ® などの抗ウイルス薬に含まれる成分は、すでにわかっている情報です。流行期を迎える前に、あるいは常日頃から、患者が見てもわかるような整理した情報を、ポスターや冊子に整理して情報発信されていると患者の不安は解消されるのではないかと感じます。

2年前のことですが、平成21年度厚生労働科学研究費補助金(特別研究事業)の取り組みで、患者団体として意見を述べる機会をいただいたときにも、患者の「薬に対する不安」についてお話ししました。このときは、新型インフルエンザ対策について、喘息などの呼吸器疾患のある人へのメッセージとして、必要な情報が整理されましたが、通常のインフルエンザ対策としても十分通用する内容ではないかと思えます。電話相談でインフルエンザに関連した質問があったときは、今でもこのパンフレットを紹介しています(図1)。このパンフレットは、厚生労働省のホームページに掲載されています¹⁾。

感染対策の意味を伝えることの 重要性

流行期の感染対策では、手洗いを励行することが非常に大切だということはこのパンフレット制作のときに学びました。

相談活動のなかでも、「家族に罹患者がいても罹患者が触ったところは絶対触らない。患者の体にも直接触れない」ことを徹底して、ほかの家族の感染を防ぐことができた例をいくつも経験しました。

しかし、残念なことに街中を見渡してみると、その手洗い励行が有効だとい

インフルエンザ対策に限ったことではないかもしれませんが、予防接種をいつどのように受けるかということについても、主治医と日頃から話しておくことができたなら、不安はずいぶん解消されると思います。